

## メモリの装着

メインメモリの取り付けで注意するのは主に下記の3点です。

- 1 点目は装着するスロット。
- 2 点目はメモリモジュールを装着する向き。
- 3 点目は取り付けのさいにはあらかじめスロット両脇のレバーを開いておくこと。

今回使用するメモリはDDR2 (240ピン) という仕様です。

以前はDDR (184ピン) やSDRAM (168ピン) といわれるものでした。

それぞれ切り欠き (ノッチ) の位置が異なっていますのでマザーボードに対応したものを使います。

一枚で2GBの容量があります。

今回は同一仕様のメモリーを2枚使用することでデュアルチャンネルにします。

(デュアルチャンネル用として、2枚一組で販売されています)

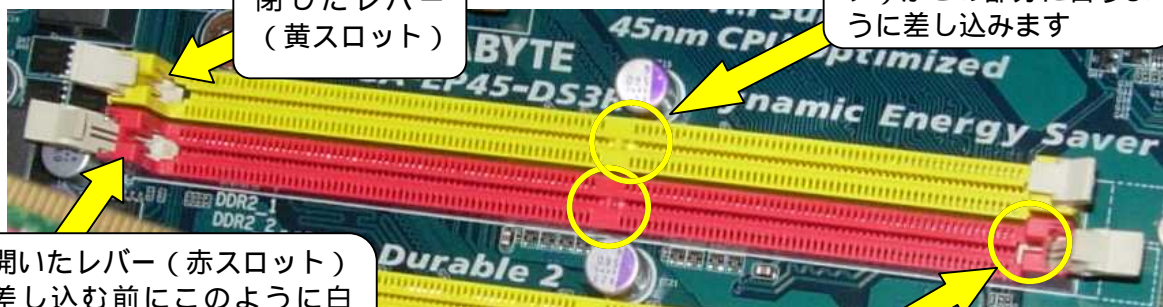
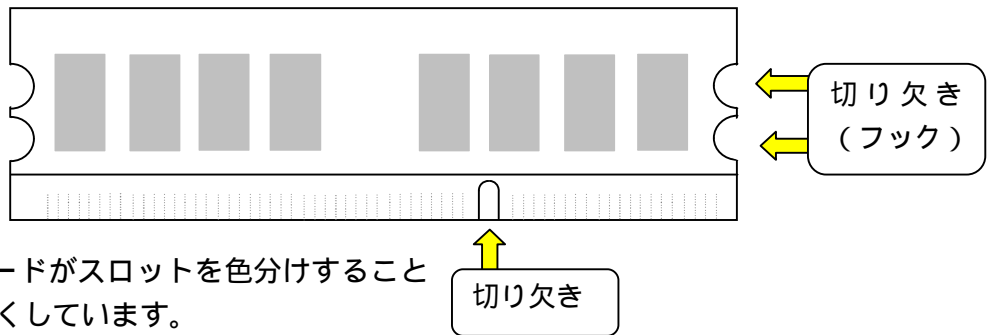
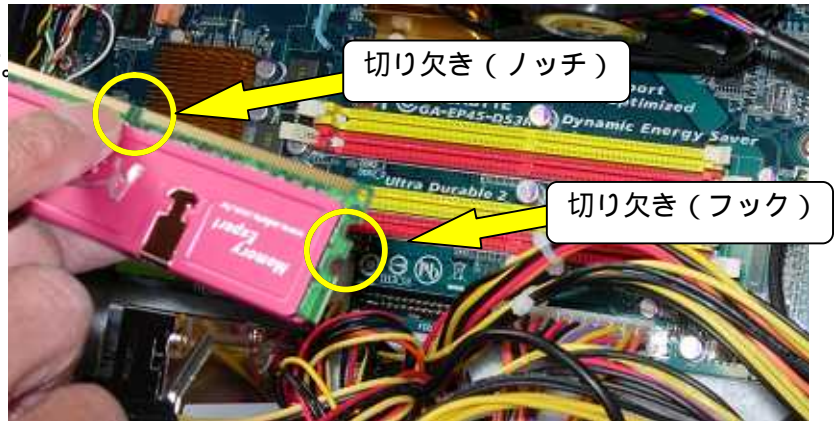
デュアルチャンネルは2枚~4枚で機能します。

3頁の参考に解説を載せています。

黄色か赤かどちらかのスロットにメモリーをそれぞれ差し込みます。

(現在は多くのマザーボードがスロットを色分けすることで組み合わせを判別しやすくしています。このマザーボードは黄色と赤色でした。)

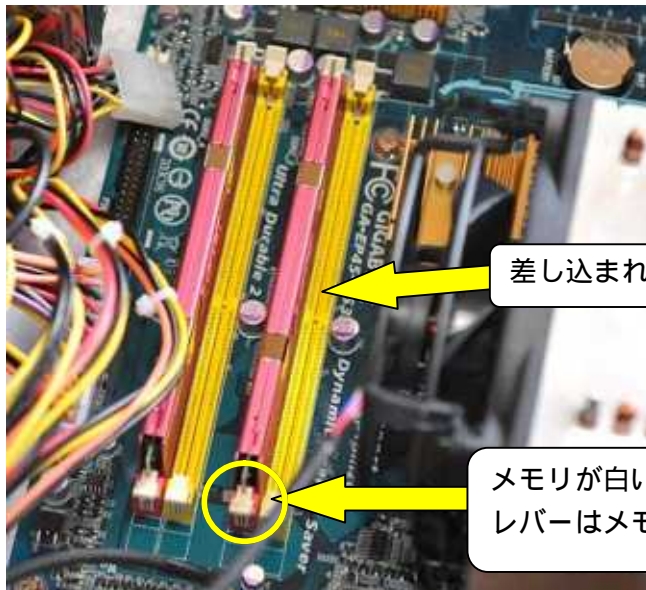
メモリスロットに切り欠き (ノッチ) が合うように差し込みます。このメモリーには冷却用に赤いアルミのヒートシンクが付いています。



スロットの両側にある白いレバー (ロック) を広げてから、ソケットにある溝に合わせて上からまっすぐ差し込みます。

両側のレバーがメモリのフックにカチッと音がしてしっかり入るまで押します。

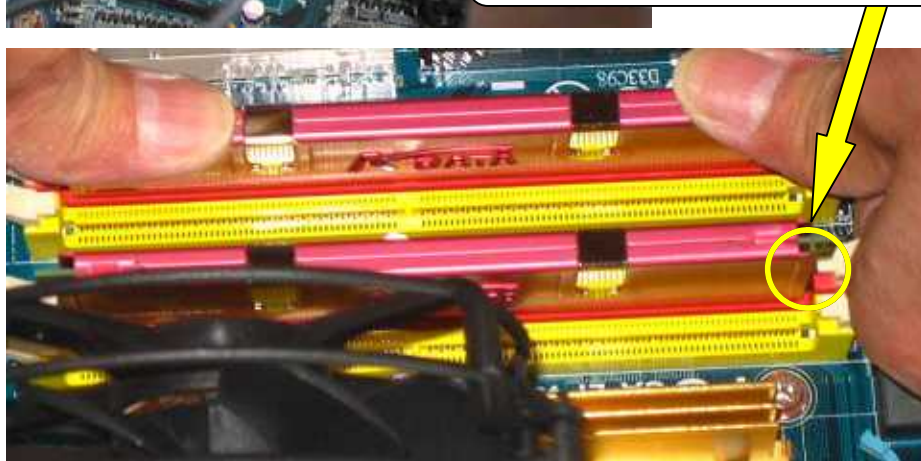
(このレバーが自動的に起き上がって固定されます。意外に力を込める必要があるのですが、レバーの位置が正しく戻っているかを必ず確認して下さい。)



差し込まれたメモリ



メモリが白いレバーの溝に挿入されている。  
レバーはメモリの切り欠き(フック)に入っている





## 参考：デュアル・チャンネルのメモリ構成

デュアル・チャンネルは CPU とメモリ間のデータ転送速度を増加させることにより、全体の処理効率を高める技術でメモリ（メモリモジュール）を 2～4 枚使用します。

各チャンネルにインストールされたメモリの容量が均等である必要があります。又動作速度の異なるメモリをチャンネル間で使用すると、メモリーの使用速度が遅くなってしまいます。今回のメモリースロットは下の写真のようになっています。



メモリは 2 枚、3 枚、または 4 枚で下記に示すような構成とします。

- **2 枚のメモリによるデュアル・チャンネル**

一般的な手法で同じ仕様、同じ容量のメモリを 2 枚夫々 ChannelA0 と ChannelB0 または ChannelA1 と ChannelB1 に差し込みます。

- **3 枚のメモリによるデュアル・チャンネル**

Channel A と Channel B の容量が同じになるようにメモリを差し込みます。

- **4 枚のメモリによるデュアル・チャンネル**

ChannelA0 と ChannelB0 及び ChannelA1 と ChannelB1 に同じ容量のメモリを差し込みます。

## メモリ追加によるデュアル・チャンネル構成例

1) 1GB (512MB×2) でスタート (メモリモジュールは 2 枚)

512MB を夫々 ChannelA0 と ChannelB0 に差し込みます。

2) 1GB のメモリ 1 枚追加し 2GB にする (メモリモジュールは 3 枚となります)

ChannelA0 と ChannelA1 に 512B、ChannelB0 (又は ChannelB1) に 1GB 差し込みます。

3) さらに 1GB のメモリ 1 枚追加し 3GB にする (メモリモジュールは 4 枚となります)

ChannelA0 と ChannelB0 に 512B、ChannelA1 と ChannelB1 に 1GB 差し込みます。

## デュアル・チャンネルを有効にするためのルール

デュアル・チャンネルを構成するには、以下の条件に合致する必要があります。

- 同じ容量であること(512MB、1GB など)
- メモリーチャンネル A と B の両方が一致すること
- メモリースロットを対称で使用する (Slot 0 または Slot 1)